

Asset Management

米国の銀行への懸念と市場への影響について

HSBCアセットマネジメント株式会社

2023年3月14日

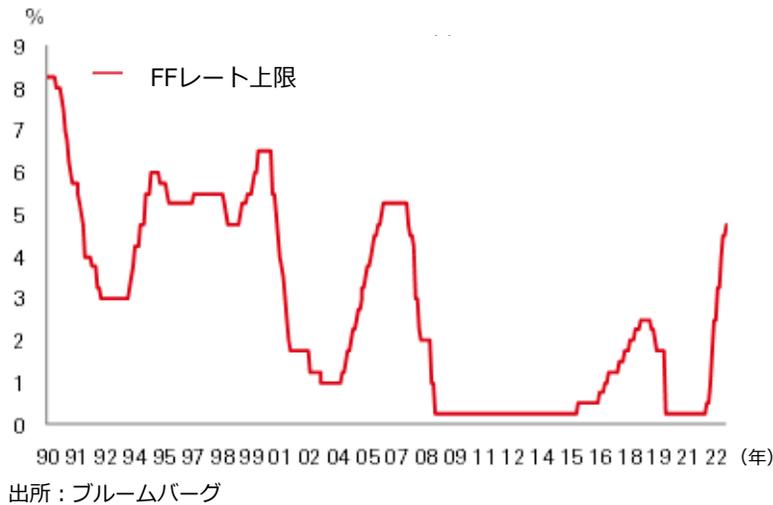
米国の銀行が相次いで破綻

- ◆ 2008年の金融危機以降で最大規模の銀行破綻であるシリコンバレー銀行 (SVB) の経営破綻を受けて、金融市場のボラティリティは大きく上昇しました。またテクノロジー企業と取引の多いシグネチャー銀行も当局により閉鎖されました。

「異例のケース」

- ◆ 一連の出来事は、金融政策の積極的な引き締めは金融市場の安定を脅かすリスクを招くということを思い起こさせます。米連邦公開市場委員会 (FOMC) はわずか1年で金利を450ベースポイント (bp) 引き上げ (図表1)、バランスシートを2022年4月のピークから6,260億米ドル縮小させました。

図表1：米国の政策金利 (FFレート) の推移 (2023年3月13日現在)



- ◆ 現在の状況はより広範な銀行セクターにおいて信頼感の危機をもたらし、多くの貸し手の資金調達条件を悪化させる可能性があります。しかしながら、当社では、以下の理由から今回の出来事が2008年のような金融危機の前触れではなく、特異なケースであると考えます。
 - ① SVBとシグネチャー銀行は、ここ数ヶ月で大幅な減速を経験したベンチャー・キャピタルおよびテクノロジー関連の顧客に大きく依存していました。
 - ② SVBの資産は長期証券に投資されていたため、財務健全性は金利上昇の影響を特に受けやすくなっていました。
 - ③ SVBの顧客は主に多額の預金を有する企業のため、より高い預金金利が予想されるなか銀行の収益性が圧迫されました。

重大な即時政策対応

- ◆ 今回の銀行破綻に対する当局の対応もまた印象的であり、米国の銀行システム全体への伝播リスクを最小限に抑えています。
 - ・ 米連邦準備理事会（FRB）、米国財務省、連邦預金保険公社は、すべての預金者が全額アクセスできるようにすると発表しました。これにより、さらなる銀行取り付け騒ぎのリスクが大幅に軽減されました。
 - ・ FRBは「銀行タームファンディングプログラム（BTFFP）」を導入し、「銀行がすべての預金者のニーズを満たす能力を持つ」ことを保証するため、250億米ドルの資金を用意しました。

米国の銀行部門は全体的に好調

- ◆ 米国の銀行システム全体が良好な状態を維持していることも注目に値します。FRBによると、2022年第2四半期の時点で、Tier 1 比率*は、世界金融危機以降の平均近くになっています。大手銀行は高水準の流動性資産を保有し続けており、短期金融市場からの資金調達への依存度が低く、これは異例の期間中においても償還に応じることが可能であることを意味します。FRBはまた、デジタル資産エコシステムがより広範な金融システムと連携することを制限していると説明しています。

市場への影響

- ◆ 一連の出来事で、長期にわたる超低金利に続く急速な金融引き締めがもたらすリスクが浮き彫りになりました。FRBがインフレを阻止することで経済や金融市場の一部に打撃を与えるリスクがあり、住宅やその他のレバレッジの高いセクターは脆弱になります。暗号資産市場の規制されていない部分も、FTXやシルバークラウド銀行の破綻などで見られたように、金融の安定性リスクにさらされています。
- ◆ しかし、当社では2008年から2009年までとの比較は的外れだと考えます。当社の標準シナリオは、90年代初頭の不況など、より伝統的な金融政策により引き起こされた景気後退を反映しています。これは信用条件の引き締めを伴うものであり、企業収益の低下とGDPの1~2%の低下につながると見ています。
- ◆ また、2008年の金融危機後に見られたような長引く不況ではなく、景気はより急速に回復すると予想しています。重要なのは、当局がいくつかの重要な教訓を学んだことであり、緊縮財政が戻る可能性は低いと思われまます。

追記：HSBCがSVB英国部門を1英ポンドで買収

- ◆ 2023年3月13日、HSBCホールディングスはSVBの英国法人を1英ポンド（約160円）で買収すると発表しました。
- ◆ 2023年3月10日現在、SVB英国法人の融資残高は約55億英ポンド、預金残高は約67億英ポンドでした。2022年12月末の会計年度では8,800万英ポンドの税引前利益を計上しました。有形自己資本は約14億英ポンドと見込まれています。また今回の取引に米国の親会社の資産と負債は含まれません。
- ◆ 今回のHSBCによる買収は不安連鎖を阻止すると同時に、英国でダイナミックかつ急速に成長しているテクノロジーセクターを支えるための素早い対応と捉えられており、英国経済において重要な役割を果たすものと考えます。

Tier1比率*：金融危機時においても銀行が業務継続のため必要な、損失吸収力の高い自己資本(普通株式や内部留保など)をTier1と言います。Tier1を分子として、これをリスクアセットで割ったものがTier1比率です。財務内容の健全性を表す「自己資本比率」のなかでも、Tier1比率は、より質の高い自己資本の割合を示した指標として見られています。

留意点

【当資料に関する留意点】

- ◆ 当資料は、H S B Cアセットマネジメント株式会社（以下、当社）が投資者の皆さまへの情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品の売買、金融商品取引契約の締結に係わる推奨・勧誘を目的とするものではありません。
- ◆ 当資料は信頼に足ると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。
- ◆ 当資料の記載内容等は作成時点のものであり、今後変更されることがあります。
- ◆ 当社は、当資料に含まれている情報について更新する義務を一切負いません。

<個人投資家の皆さま>

投資信託に係わるリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象としており、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し損失が生じる可能性があります。従いまして、投資元本が保証されているものではありません。投資信託は、預金または保険契約ではなく、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の投資信託は投資者保護基金の保護の対象ではありません。購入の申込みにあたりましては「投資信託説明書（交付目論見書）」および「契約締結前交付書面（目論見書補完書面等）」を販売会社からお受け取りの上、十分にその内容をご確認いただきご自身でご判断ください。

投資信託に係わる費用について

購入時に直接ご負担いただく費用	購入時手数料 上限3.85%（税込）
換金時に直接ご負担いただく費用	信託財産留保額 上限0.5%
投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用	運用管理費用（信託報酬） 上限年2.20%（税込）
その他費用	上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。「投資信託説明書（交付目論見書）」、「契約締結前交付書面（目論見書補完書面等）」等でご確認ください。

- ◆ 上記に記載のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
- ◆ 費用の料率につきましては、H S B Cアセットマネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。
- ◆ 投資信託に係るリスクや費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、かならず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

H S B Cアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第308号

加入協会 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/日本証券業協会



ホームページ

www.assetmanagement.hsbc.co.jp



電話番号 03-3548-5690

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）